

子育て予算

最優先のまちへ

# 新しい系満をつくる 6つの柱

かかすいぐみ

系満市長選挙立候補予定者



# かかずいくみ これまでの取り組み

## 学校給食



学校給食の地産率は約2割で推移しており農業従事者の多い糸満市の第一次産業が活かしきれいていません。地産率の上昇と第一次産業従事者の所得向上に繋がる仕組み作りを提案してきました。また、現在学校給食では牛乳の廃棄分だけで年間約16トンの食品ロスが出ています。牛乳の提供には1食70円かかります。アレルギーや乳糖不耐症など牛乳が飲めない児童は停止手続きによって給食費の減額が行えるため、制度の周知も行っています。

## 熊野鉱山と辺野古新基地



沖縄戦の終焉地であった南部地区、米須にある熊野鉱山から土砂を採掘し、辺野古新基地建設の埋め立てに使われる計画になっています。遺骨混じりの可能性がある土砂を米軍基地建設のために使用することは戦没者に対する冒瀆に他なりません。またトラックの搬入ルート下の真下にある遺跡は米須自治会から保全を求める声が上がっています。議会でも長い時間をかけて取り組んできた課題の一つです。

## コロナワクチン事業



新しいワクチン事業に関しては慎重に考えています。大切なのは有効性だけでなくリスクも踏まえ本人がしっかり納得した上で判断することです。しかし、判断材料となるデータの情報開示が不十分であることや、安全性が置き去りにされていると感じる接種方法、ワクチンの健康被害を証明することは難しく因果関係不明となることが大半であること、医療法1条の4第2項（説明と同意）が行使されていない事実もあり、議会でも追求をしてきました。

## 農業



食は生きる基盤です。学校給食を始めとして糸満産食材を積極的に使うことで地域内で循環、第一次産業従事者の所得向上、後継者育成のための環境作り、健康へもつながるよう活動をしてきました。元々糸満の文化であった稲作の復活も目指しています。有事の際にも地元で食糧が確保できるかどうかは重要です。土壌が元気であれば海の健全な環境にも寄与し、大漁にもつながると云われています。

## 福祉



平成23年度に基準額が定められた、糸満市障がい者等日常生活用具の給付に関する要綱が、約13年間改定されていません。物価高騰の中、障がい者の方々の生活用品にかかる家計負担も大きくなっており、ストーマ装具を使用するオストミー協会からも見直しを求める要請書が提出されており、早急な改定が必要です。また、身体障がい者手帳を取得できず給付の対象外となっている一時的ストーマ使用者への待遇改善も求めています。

# 政治が嫌いだから政治家になった

## かかずいくみ



皆さんは政治は好きですか？ 私は「嫌い」です。  
税金を払えど払えど行政サービスの拡充は遅れている。  
政治家の不正は後を絶たず、時間と共に忘れ去られる。  
政府に対する不満もネットで呟くのみで、選挙も行かないし行動もとらない。  
そんな私でしたが、子どもが生まれた事をキッカケに真剣に政治と向き合い始めました。  
政党、企業、団体。誰に推されて政治の場にいるのか。誰の為の政治を実行する人物か？  
私たちが放り捨ててきた投票権は、組織にとっては好都合であること。  
組織や団体をもつ候補者は、まともれば当確ができ、予算編成の権利を得る事になる。  
この道の工事はなんだろう？このハコモノ、要らないのに建つのはなんだろう？  
ずっと疑問に感じていた事から目を逸らさず、私たち市民も忖度をせず、  
誰が市民のために政治を実行するのかを吟味しなければなりません。  
私たちの1票で作った社会で子どもたちが生きる事になるのですから。

氏名 賀数郁美（かかずいくみ）  
出身地 沖縄県糸満市生まれ  
卒業校 沖縄県立南部商業高等学校卒業  
経歴  
2013年09月：やちむん工房結設立  
2019年09月：畑の茶屋結オープン  
2021年11月：糸満市議会議員選挙当選（1期目）  
2023年10月：辺野古新基地建設に反対し、  
沖縄の自治の底力を発揮する  
自治体有志議員の会事務局長就任  
2024年02月：同上 共同代表就任  
現在に至る

## かかずいくみは 辺野古新基地建設に反対です！

熊野鉱山の土砂を  
辺野古新基地建設には  
使わせない！



社会を変えるための

# 明石モデルを系満に!!



役所の事業とは?

行政の事業は  
たくさんある!



他の予算も  
拡充♥

事業の整理

子育て層の移住増で  
税金UP!

大幅な  
公共工事の削減!!  
明石市では  
約450億円削減!!

浮いた財源で  
5つの無料化

- ・こどもの医療費(高3まで)
- ・おむつ1才まで
- ・第2子以降の保育料
- ・中学校の給食
- ・公共施設4カ所の入場料

無料化を  
進めると...

削減した  
予算の使いみち

5つの無料化は  
3億円で実現できる!

例年約4億円前後で実質収支は推移しており、単年度収支で赤字にならないよう不要不急な公共工事などの大胆な見直しを行い、これをベースに新たな財源を加えて実現します。



明石モデル：兵庫県明石市が行った「こどもを核としたまちづくり5つの無料化」子育て世代の移住者が増加し、10年連続の人口増、8年連続の税収増を実現!

NEW

# 新しい糸満をつくる

# 6つの柱政策

ITOMAN

第2子からの保育料無料

中学校の学校給食無料

オムツ無料

市民プール入場料無料

## 1 子育て

18歳までの医療費無料

空き家対策、  
仏壇の引越にかかる補助金など

危険な場所などの  
必要な公共工事の推進

習い事の月謝サポート

## 2 教育

フリースクール学費補助

## 6

## 防災と福祉

学校給食の地産地生・  
無添加有機食材

学校給食での  
牛乳選択制による  
フードロス削減

新しい糸満を  
一糸者につかっていきましょう!

防災リーダーの育成と  
多様な人に合わせた避難計画

農福・漁福連携を推進

アグリツーリズム  
農業体験型観光

地産品主体の地域マルシェ

稲作文化の復活と  
地産品の創出

糸満文化の体験型観光

## 3 第1次産業

学校給食に使用する食材の作付

ふるさと納税の拡充

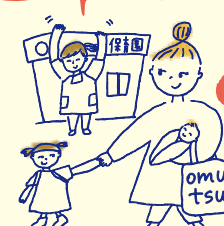
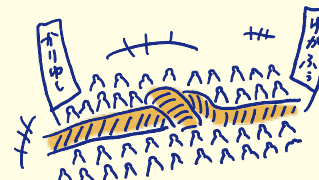
## 5 観光産業

無人販売の  
盗難防止  
コインロッカー

## 4 財源

宿泊税の導入

屋内練習場のネーミングライツ





# 政策1

# 子育て



# 政策2

# 教育



県内No.1の子どもの街へ!

未来の担い手を全力応援!!

## 5つの無料化

- ①第2子以降の保育料を無料化 年約7.800万円
- ②18歳までの医療費を無料化 年約1.400万円
- ③満1歳までのおむつ無料化 年約3.000万円
- ④中学校の給食費を無料化 (小学校も段階的に無料化) 年約1.5億円
- ⑤市民プールの入場料を無料化 年約1.000万円

- ①子どもの習い事月謝サポート
- ②給食への無添加、有機食材の導入
- ③学校給食の地産地生の促進と給食センターの自校方式(給食室)の実現
- ④フリースクール学費の補助
- ⑤フードロス削減を目的とした学校給食での牛乳の選択制の周知

## 詳しく解説

糸満市を県内1の子育て支援の街にします。そのため上記5つの無料化を提案し、必要な財源は約3億円と試算します。

### 5つの無料化は3億円で実現出来る

例年約4億円前後で実質収支は推移しており、単年度収支で赤字にならないよう不要不急な公共工事などの大胆な見直しを行い、これをベースに新たな財源を加えて実現します。

## 詳しく解説

未来の担い手である子ども達を応援します。給食に無添加の調味料や有機食材を導入することで、子ども達の栄養状態の向上をはかり健康な身体作りを支えます。また、国が定めた「教育機会確保法」に基づき、全ての子どもたちが平等に教育を受けられるようサポートします。給食の自校方式の実現により地域の食材を導入しやすくなり、地産地生を促進します。出来立ての給食と、アレルギー食への柔軟な対応が可能になります。

## なぜやるか?

R4糸満市では戦後初めて死亡数が出生数を上回りました。R4で13人、R5で81人死亡数が上回っています。R6はさらに差が開いてくると予測される中、ここ糸満で新しい命を生み育てたいと体感できる市政を運営しなければなりません。経済的な不安に対し全力でサポートをする事で、持続可能な社会を実現すると共に、将来世代の子ども達に負担を残さない社会を創ることへと繋がります。

## なぜやるか?

現在の不登校児童数は約280人います。一部のこども達は支援学級等に通っていますが、ほとんどが自宅で過ごしているケースが多いのが現状です。こども達自身が選択した学ぶ場や習い事のサポートを行政が担う事で全てのこども達の『学ぶ権利』を守ります。また、発達障がいや不登校のこども達のビタミン・ミネラル不足が云われており、安全安心で栄養価の高い給食を提供することは、こども達の心と身体の健やかな成長に大きく影響します。





# 政策3 第1次産業

# 政策4 財源

目指すは  
地域が元気になる経済の循環

- ①学校給食で使用する食材の「作付計画」を策定 ※作物をいつどのくらい作るか計画をすること
- ②農福・漁福連携を推進
- ③物価高騰に対応した新たな農業理論の普及
- ④地域マルシェの開催をサポート
- ⑤無人販売の盗難防止対策
- ⑥稲作文化の復活

新たな財源を生み出そう

- ①不要不急な公共工事の見直しと削減（必要な公共工事は推進）
- ②ふるさと納税のさらなる拡充
- ③企業版ふるさと納税の推進
- ④法定外税である宿泊税の導入
- ⑤ネーミングライツの推進

## 詳しく解説

糸満市の第一次産業の活性化に繋がる経済の循環を実現します。第一次産業を守ることは暮らしを守ること。作付け計画の策定や新たな農業理論（BLOF理論：科学的なデータに基づく農法）の普及により安定的な農作物の供給を目指します。農福・漁福の取り組みは障がい者の就労や生きがい創出に加え、人口減少・高齢化が進む第一次産業において新たな働き手を増やします。地域マルシェによって生産者と消費者がつながることで、顔の見える地域内での経済循環を促進します。

## 詳しく解説

ふるさと納税制度のフル活用と宿泊税の導入により新たな財源を生み出します。ふるさと納税の返礼品のさらなる拡充と企業版ふるさと納税を推進する事で個人や企業からの寄附を増やします。また、沖縄県内の他市町村が観光地であることを活かして独自に実施している宿泊税を糸満市でも導入します。現在建設中の屋内練習場にネーミングライツ（命名権）を使用することで財源が生み出せます。

なぜやるか？

地域内で経済を循環させる取り組みとして「学校給食」は大きな市場です。その中でも「稲作復活」への想いはひとしおです。田植えから収穫まで子ども達に関わってもらい、その稲藁で綱引きを行い「豊作祈願」という本来の文化を取り戻し継承しつつ、糸満産のお米を学校給食で使用する。田んぼでの体験と学びを通して食農教育を推進すると同時に、農業に従事する方々の安定的な収入を確保し、次世代も含めて第一次産業を守る事にも繋がります。

なぜやるか？

新たな財源を生み出す事は市の発展に直結する課題のひとつです。これまで糸満市は沢山の企業を誘致してきましたが、私たちの生活は豊かになったのか。今見つめ直す時期に来ていると考えます。企業を誘致する事で税収は増えても、その分国からの交付金が減額されるため、企業誘致=財源が増えるとは安易には言えないのです。法定外税（宿泊税など）を新たな財源として取り入れる事は安定的な財源の確保となり持続可能な発展をもたらします。



農は宝





# 政策5 観光産業

# 政策6 防災と福祉

## 今ある資源を活かした観光へ

- ①糸満らしい文化や伝統にスポットをあて付加価値を高める
- ②アグリツーリズムとサステナブルツーリズムの推進
- ③観光協会や民泊事業者、ホテル等との連携強化

## 安全安心なまちづくり

- ①過疎地域の空き家活用
- ②通学路など必要な公共工事の推進
- ③防災計画改定と自主防災組織との連携強化及び避難訓練の検証
- ④早期の個別避難計画の作成と地域防災リーダー養成講座(仮称)の開催
- ⑤障がい者等、日常生活用具の給付に関する要項の改定
- ⑥幅広い年齢に対応した福祉拠点としてのスポーツロッジの活用

## 詳しく解説

糸満市にある既存の資源を生かして新しい観光を作ります。糸満市は県内で3番目に農業従事者が多い農業の市です。農業を観光資源に転換し、糸満大綱引きなど糸満らしい文化や伝統に付加価値を付け観光に繋げ、地域(自治会)にお金が落ちる仕組みを作り、その際に必要な宿泊先として民泊、ホテルなどとの連携を強化します。

## 詳しく解説

全ての人安心して暮らせるまちづくりを推進します。過疎地域の空き家を活用していくために仏壇の引越費用の補助をはじめとしたサポートを行います。市民生活において危険性の高い場所など必要な公共工事を推進します。災害時に機能する具体的な施策として、防災計画改定と既存の自主防災組織との連携を強化します。また新たに個別避難計画の作成と地域防災リーダー養成講座(仮称)の開催をします。災害は時と場所を選びません。いつ起こっても対策がとれる糸満を目指します。

## なぜやるか?

これまでの沖縄の観光は「見る観光」が多かったように感じています。この地で生まれ育った私たちは、当たり前前の文化として見過ごしている行いが、実は他県から見れば価値のある文化でもあるのです。「糸満に触れる・体験する」そして「糸満の人と繋がる」という新しい視点を持った観光のあり方を提案します。人と人の繋がりを構築し、地元に戻ってからもふるさと納税などで応援してもらえる市をつくれます。

## なぜやるか?

30年以内に南海トラフ地震が起こり、沖縄でも大きな被害があると想定されています。先日の台湾地震で沖縄に津波警報が発令されましたが、幸いにも被害はありませんでした。しかし、もし津波が到達していれば甚大な被害が出ていたと考えられ、現在の災害対策が上手く機能していなかった事が浮き彫りになりました。安全安心なまちづくりのため、発災時に実際に機能する計画なのか検証まで行くと同時に、市民一人ひとりの防災に対する意識の向上も図ります。





# 応援メッセージ

沖縄戦遺骨収集ボランティア  
ガマフヤー代表

具志堅 高松  
さま



いくみさんには埋め立て土砂問題でとても助けられています。頑張ってくれています。それも大切なことですが、私はいくみさんに期待しているのは、糸満市民の生活を絶対良くしてってくれるだろうということです。私達は主権者なんです。国の進む方向を沖縄が進む方向を糸満市が進む方向を決める事ができるんだと言う事。皆さんが持っている権利なんです。いくみさんはその事をよく知っている唯一の候補者です。

元参議院議員

糸数 慶子  
さま



私が政治の世界に入った大きなきっかけは、愚かな戦争を止めるのは政治しかないと言う思いからでした。かかずいくみさんは、唯一の基地反対の予定候補者であり市民に近く、そして命を守る安全安心な食を繋いでいく事のできる政治家と確信しておりますので、かかずいくみさんを応援しております。

元農林水産省大臣

山田 正彦  
さま



2年ほど前に沖縄でいくみ君と出会いオーガニック給食の話で意気投合し、その後東京にも来てもらったりしながら一緒に活動しております。子どもたちの食の安全のために、糸満市の市長さんとして沖縄県で最初にオーガニック学校給食を実現できることを期待しています。

## 糸満市民の声

### 応援メッセージ



4児の母 伊敷さん

郁美さんの「農と子ども、命を大切にする」取り組みは、真に豊かな暮らし・糸満市を創ると思います。市民にやさしい、環境にもやさしい、元気な街になったらいいな~!!



太田悠晴・あきの

子供を持つ親として、子育て支援や明石市のような福祉サービス無償化の実現を目指す賀数郁美さんを応援します。これからも頑張ってください!

FIGHT!  
IKUMI!

いくみんの政策に希望を感じて  
糸満市民になりました!

オーガニック給食を政策に掲げていたいくみんが市議会選挙に当選し、当選させた市民への希望を感じ、糸満市へ移住しました。食や今ある生活に関わる事だけでなく、空き家問題や災害、医療問題など、より良く循環することを見据えて提案し続けているいくみん。私たちが次世代の希望です!

上野よしさね・えみ



内部資料

かかずいくみ 検索

お問い合わせ  
かかずいくみ後援会 098-992-8641



上原夫妻

子育て世代(特に女性や子供)がお金の心配をせず安心して暮らせる街になってほしい!  
子供の健康を最優先に考える街になってほしい!